2022 年 2 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【2 月の気象】

2 月上旬は 1 月下旬から続く 1 年で一番寒い時期です。暦においても節分（本年は 2 月 3 日）を迎え、翌日の立春の名のごとく春へと進み始める頃となります。

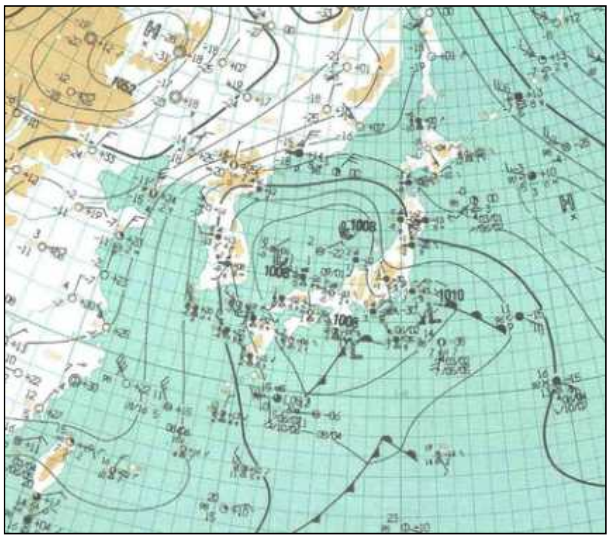
この時期は、日本の南岸を通過していく低気圧（南岸低気圧）の影響で大雪になることがあります。また、低気圧が日本海を発達しながら通過すると、暖かい南風が吹き、気温が上昇することもあります。立春から春分までの期間で、広い範囲に初めて吹く暖かい南よりの強い風を「春一番」といい、気象台からは「季節のお知らせ」として気象台ＨＰで発表しています。

四国地方で「春一番」が最も早く吹いたのは 1972（昭和 47）年 2 月 2 日、もっとも遅く吹いたのは 2002（平成 14）年 3 月 21 日です。

【気象用語】「南岸低気圧」とは

「南岸低気圧」とは、日本の南海上を主に東～北東に進む低気圧のことです。

冬期において、南岸低気圧が四国沖を通る場合は、低気圧へ吹き込む南からの湿った空気が冷され、東予から中予の平地でも大雪となり、南予の一部や島しょ部でも雪が積もることがあります。低気圧の通過する緯度によって、雨と雪の分布が異なることから、雪の予想が難しくなります。また、南岸低気圧に伴う雨や雪の予報は、低気圧の通るコースと降水をもたらす雲域の広がり方の両方について正確な予測が必要となりますので、予報が難しい場合が多くなります。低気圧が九州の南海上の北緯 29 度と潮岬南海上の北緯 31 度を結ぶ線、九州の大隅半島南端と潮岬南海上の北緯 33 度を結ぶ線の間を通過する場合、県内では 5㎝ 以上の積雪となりやすいとの調査報告があります。

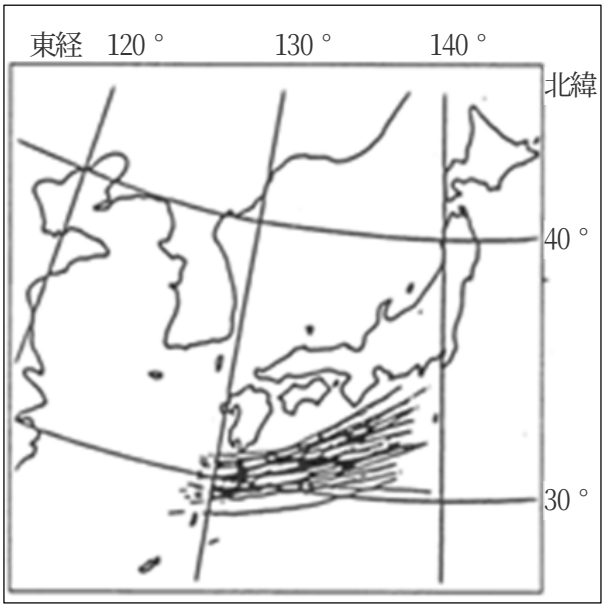


1987年2月2日21時の地上天気図

松山における降雪の深さ日合計は、1953 年からの統計によると、1984 年 1 月 31 日の降雪の日合計 14㎝ が 1 位、1987 年 2 月 3 日の 11㎝ が 2 位で、南岸低気圧によるものでした。

南岸を低気圧が通過する時、低気圧が四国に接近するほど積雪が多くなり、東予山間部では積雪が 20㎝ を超えることもあります。しかし、低気圧が近すぎると南予を中心に雨となります。

大雪が予想される場合、気象台は、気象情報や警報・注意報を発表します。気象庁ホームページでは、今後の雪（降雪短時間予報）のページから雪の情報をご利用になれます。最新の情報を積極的に入手し、雪などによる災害の防止、軽減にお役立てください。



愛媛県で5cm以上の積雪を記録したときの
南岸低気圧の移動経路（黒線）

今後の雪（降雪短時間予報）はこちら ↓
https://www.jma.go.jp/bosai/snow/#zoom:8/lat:33.532237/lon:133.022461/colordepth:normal/elements:snowd